

青雲

16号 2014.2

発行人 一般社団法人島根県出雲地区建設業協会青年部会

青雲

16号 2014

contents

- ◆巻頭言／「考動！」
 - 一般社団法人島根県出雲地区建設業協会青年部会 ……………①②
 - 部会長 梶野直宏
- ◆「特集」～次世代建設就業者育成事業～ ……………③④
 - 育てる(継承・警鐘)
 - 出雲農林高校生との現場見学会……………⑤⑥
 - 出雲農林高校生との意見交換会……………⑦
 - 新聞記事掲載……………⑧
 - 現場見学会に参加して(出雲農林高校生)……………⑨⑩
 - 佐々木良平・山崎奈緒・山根銀次・湯浅峻
 - アンケート結果……………⑪～⑭
- ◆平成25年度卒業生より一言 ……………⑮
 - (有)平井組 平井貴司「青年部会を卒業するにあたって」
- ◆平成25年度新入会員紹介……………⑯
 - 今岡工務店 今岡宏典
 - (有)和田建設 寄貞隆夫
- ◆平成25年度事業報告
 - <親睦事業報告>
 - 第18回全国大会……………⑰⑱
 - 会員交流委員会 委員
 - (株)日本海建設 青砥正人
 - <地域貢献事業報告>
 - 2013海岸清掃……………⑲
 - 地域貢献委員会 委員
 - 今岡工務店 今岡宏典
 - <経営研究事業報告>
 - 意見交換会2013 ……………⑳
 - 経営研究委員会 委員
 - 山口建設(株) 安部希芳
 - 出雲農林高校生との現場見学会・意見交換会……………㉑
 - 経営研究委員会 委員
 - ミシマ産業(株) 三島一男
- ◆編集後記 <総務広報副委員長 大野 剛> ……………㉒

考 動 !

一般社団法人
島根県出雲地区建設業協会青年部会
部会長 梅野直宏



2012年12月26日より始まった第2次安倍内閣が本年度で2年目を迎えます。安倍首相が表明した”3本の矢”を柱とする経済政策は、政策の最大目標を経済回復と位置づけ、アベノミクスを力強く推し進めています。また、2020年の東京オリンピック開催が決定し、日本全体が好景気感になっているような気がしています。そして建設業界にとっても、この好況から、新年度予算においては公共工事への予算が対前年比よりアップするなど良い方向へ向かっているのではないのでしょうか。しかし、一方ではたくさんの問題を抱えているのが実態です。まず、4月の消費税増税です。昨年の秋ごろより建築関係を中心に、新築・リフォームの受注が増え、技術職人や材料等の不足が問題になっています。4月以降の受注等を含め非常に気掛かりです。また、オリンピックの開催が決定したことで、さらに地域での職人不足・材料不足も深刻な問題になるのではないのでしょうか？

次に若手技術者の不足です。地域建設業にとって、もっとも深刻な問題かもしれません。県内の特に土木系高校へ進学する生徒の数は年々減少しています。そして土木関連会社に就職希望者も同様に減少しています。本当に待たなしの状態です。島根県においては、公共工事は貴重な主要産業だと思います。その主要産業の担い手が居なくなることは、技術の伝承はもちろんのこと、従事者が居なくなることを意味します。本年度青年部会は、その問題を解決する為に、新たな取り組みを実施しました。詳細は特集面をご覧くださいと思いますが、出雲農林高校、国土交通省松江国道事務所、出雲県土整備事務所のご協力のもと、環境科学科2年生の生徒を対象とした現場見学会を実施しました。国発注、県発注それぞれの現場を見学し、その後、意見交換会を実施しました。意見交換では、些細な質問から建設機械に乗ってみたいなどの意見があり、最後には、将来は建設業に入って頑張りたいとの意見が飛び出し、大変有意義なものとなりました。学校からも、このような直接意見が聞ける場は大変大切であり、是非今後も継続してほしいとの意見を頂きました。改めて、今後も若手技術者不足を解決するために、様々な活動を実施しなければならないと強く感じました。

いずれにしても、地域建設業を魅力あるものにしなければ、それぞれの問題解決は大変難しいと思います。私たち地域建設業の役割は大変重要であり、決してなくてはならない存在です。引き続き魅力のある建設業に向けて青年部会として努力して参ります。

最後に、私ごとではありますが昨年11月に開催しました「第18回全国建設青年会議広島大会」の事について触れたいと思います。私は今大会で実行委員長を務めました。改めてご協力いただきました皆様には、心より感謝申し上げます。

さてこの全国大会は、大会テーマを

“考 動” ～ Ideal Action 今建設青年人が動くとき！～

として、全国の同志がそれぞれの地域で活動している事例発表を行い、最後に異業種の皆様によるパネルディスカッションで、事例に対する評価やアドバイスを頂きました。事例発表に

においては、参考になる活動も多く、それぞれの地域の特徴が上手く活用された地域貢献活動でした。実際建設業は情報発信において、あまり上手くないと言われています。このような素晴らしい地域貢献活動も地域の皆様には伝わっていないのが現状です。どうしたら伝わるのか？

土木学会が発表したアクションプランに、

“伝える”から“伝わる”

となっています。

今後は、全国でそれぞれの活動を“伝わる”ように努力していく必要があります。その実現が、魅力ある建設業となり、技術者不足の解決に繋がると確信します。引き続き問題解決に向け努力して参りますので何卒よろしくお願い申し上げます。

今大会において採択された決議は下記のとおりです。

大会決議書

【「伝える」から「伝わる」へ】

地域建設業は、数年にわたる大幅な公共事業費削減の結果、ダンピング入札や労務単価の低下による労働環境の悪化、雇用力の低下など、政権交代後の施策により回復する動きもあるが、依然として様々な問題が山積している。また、未来の見えない業界とみられるためか若手技術者の不足が深刻化している。

その厳しい経営環境の中でも、東日本大震災、異常気象による災害などがひとたび発生すれば、地域の安心・安全な生活を確保すべく、地域建設業は真っ先に現地に駆けつけ、対応にあたるという使命はこれまでと全く変わることなく、このところの過去に見られないような気象の変動をみれば、今後、その使命はさらに大きくなっていくと思われる。

一方、社会からは、公共事業の負のイメージのみで行政・業界すべてを評価されるためか、地域における我々の役割、存在価値の理解は乏しいと言わざるを得ない。

これまでも若手の役割として社会に対するPR活動は行ってきたが、災害大国日本における我々の役割や存在価値を理解されるに至らず、マスコミ等からも取り上げられることが少なかった。

本大会を契機として、単に動くことから、地域建設業の役割が適正に理解・評価されるには、どのように社会とコミュニケーションをとればよいかを念頭に置いた“考動”へ変えていかなくては、我々に対する真の理解は得られない。

第16回全国建設青年会議で採択された大会決議の行動理念、行動方針を引き継ぎ、本大会は、

“考動” ～Ideal Action 今建設青年人が動くとき！～

をテーマとし、全国の同志が積極的に“考動”することを提唱する。

行動理念

日本を守り創る建設業としての誇りを堅持し、積極的に行動する

行動方針

- 1.地域の安心・安全な生活、雇用等の経済活動を支える基幹産業としての使命を再認識するとともに、その使命を果たすべく活動する
- 2.社会に対し、地域建設業の適正な理解・評価に繋がる発信を、積極的に行っていく

平成25年11月29日

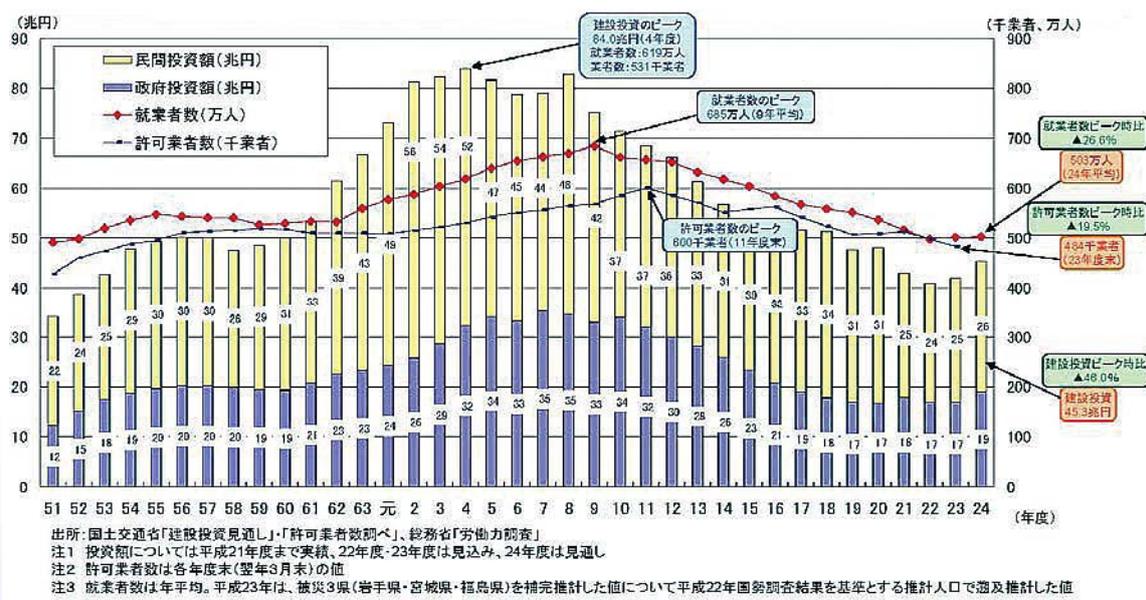
全国建設青年会議

第18回全国大会

～次世代建設就業者育成事業～

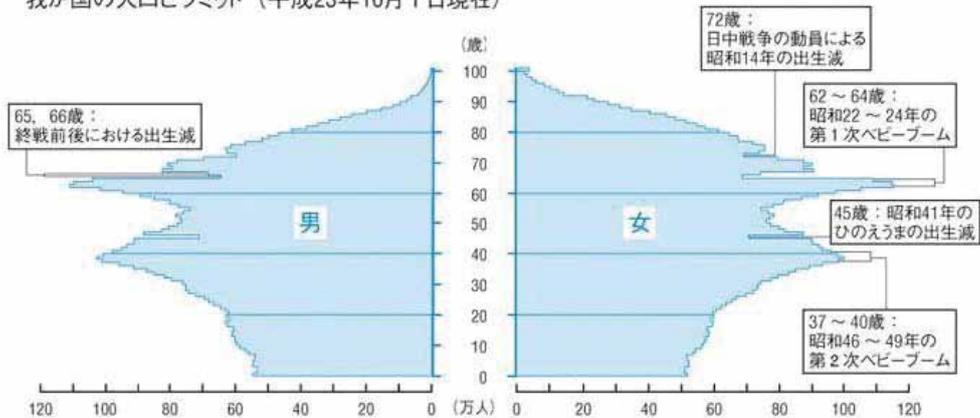
育てる（継承・警鐘）

“肥溜めが消えた” 私たち青年部会会員が少年時代通学路に数個存在し、通る時には鼻をつまんで速足で通りすぎる者、また石を投げ込み駆け足で逃げる者がいたものだが、数百年いや数千年前おそらく人類が農作を始めたころより代々“引き継がれ”てきた肥料にする糞尿を肥溜めにためておき田畑に使用する人・光景を近年まったく見なくなった。ここ数年の下水道整備による水洗化また農業就労者の後継者不足等原因は考えられるが、数十年後には死語になる言葉の一つだろう。そのような下水道工事を施工してきた私達の従事する建設業界を振り返ると、戦後高度経済成長のもと高速道路、鉄道、ダム、橋などのインフラ整備が進み、平成まで右肩上がりに建設投資・就業者数・許可業者数は増え続け、それぞれのピークを迎える平成元年から10年の間に私達青年部会会員はこの右肩上がりの流れを引き継ぎ更に成長・発展させたいという思いでこの業界に就職した。

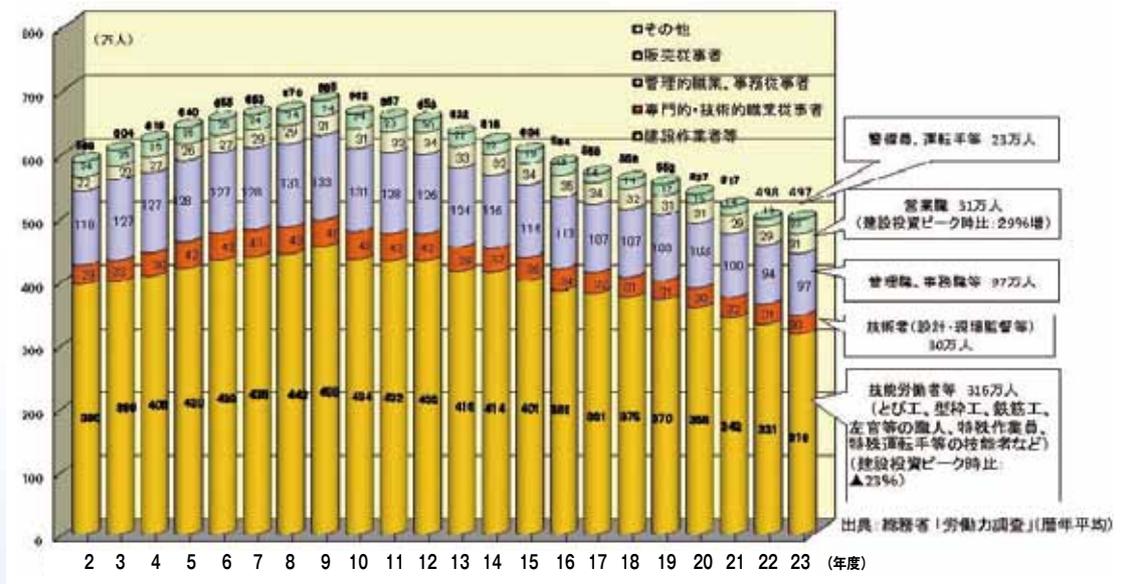


しかしながらバブル崩壊後の景気低迷、国市町村の財政の悪化、政権交代など様々な要因により大幅な公共工事の削減が進み平成10年代より建設投資・就業者数・許可業者数は減少に転じ、建設投資額に至っては平成4年度のピーク時より半減まで落ち込んでいる。またダンピング入札や労務単価の低下、さらにマスコミによる「3K」・「税金の無駄遣い」・「利権」等のマイナスイメージを増長する“誤解”された報道により労働環境は入社時に比べ非常に厳しくなっている。そして様々な問題に直面している中、我々青年部会は若き建設人としてどう“動く”べきか考え、今年度は若手技術者不足・若者新規入職者の減少の問題に注目してみた。

我が国の人口ピラミッド（平成23年10月1日現在）



人口ピラミッドをみると一目瞭然だが、超高齢化社会が差し迫るなか人口は数年前から自然減少に転じ今後人口は減り続け、西暦2100年には現在の半分以下の五千万人まで減少すると予想されている。島根県に至っては昭和30年の92万9千人をピークに減少し現在では70万人をきろうとしている。そして建設業のみならず、農業・漁業・林業などの第一次産業の後継者不足、若者就業者不足は年々深刻化してきている。



上記グラフをしてみると、建設業就業者数は平成9年の685万人をピークに減り続ける中、特に“3K”の象徴である技能労働者の減少が著しく、全産業における建設業就業者の占める割合もここ十年で9.5%から7.5%へと2ポイント低下している。

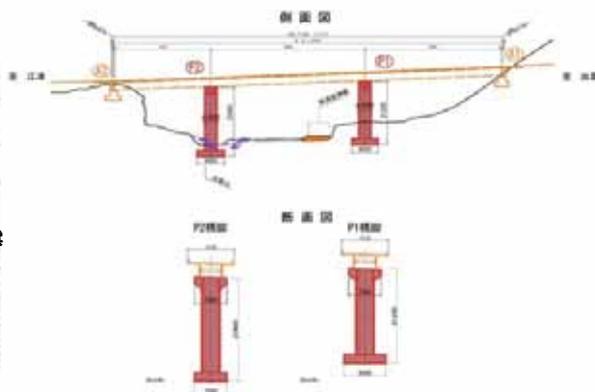
このような状況の中でも災害が起こった時、最初に支援に“動く”のは我々地元建設業者であり現場の先頭に立つのは技能労働者である。このまま建設業ばなれが進んでしまうと災害時の対応はもちろん、新たなインフラ整備、またこれまで整備してきた国土を維持していくことさえ困難な時代になってしまう。

我々青年部会としてはマイナスイメージによって引き起こっている業界全体の衰退・若者新規入職者の減少の問題を克服し業界に従事する技術者（職人）の失われた“誇り”をとり戻し次世代に引き継ぐために何をすべきか、どう動くか考えた時、今年度はその一歩として、島根県立出雲農林高校 環境科学科 2年生28名と現場見学・意見交換会を行った。

出雲農林高校生との現場見学会

朝山大田道路 大原川橋下部工事

会社名：株式会社 中筋組
担当者：現場代理人 川上 真司
発注者：国土交通省 中国地方整備局 松江国道事務所
工事場所：島根県大田市久手町波根西地内
工期：平成25年3月14日～平成26年1月31日



工事概要：河川土工1式 RC橋脚工 2基：P1橋脚(H=21.2m) P2橋脚(H=23.4m)
護岸工L=38.0m 仮設工(指定) 仮水路工L=47.3m 仮設工(任意) 迂回路工 L=38.0m,W=4.0m

大原川橋下部工事 工事内容の説明



松江国道事務所より事業概要の説明を頂きました。



工事概要や工事進捗状況などについて説明しました。

工事について学習



現場にて橋梁下部工事の流れを説明し、施工状況を見学して頂きました。(写真左)

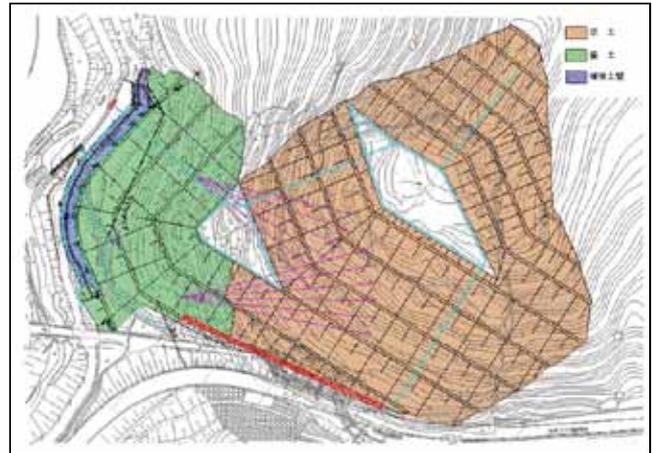


最新の測量機器(トータルステーション)について説明し、学習して頂きました。(写真上)

出雲農林高校生との現場見学会

平成24年度災害関連緊急治山事業
(御幡川) 山腹工事

会社名：今岡工業株式会社
 担当者：現場代理人 藤原 寛
 発注者：島根県出雲県土整備事務所
 工事場所：島根県出雲市佐田町大呂地内
 工期：平成25年3月30日～平成26年3月25日



工事概要：切土工 132,640m³ 盛土工 31,859m³ 残土処理工 95,394m³
 現場吹付法枠工 2,736m³ 補強土壁工 610m 籠枠土留工 344m 水路工 1,080m

御幡川山腹工事 工事内容の説明



生徒の皆さんは真剣に工事担当者の工事説明を聞いていました。

工事について学習



測量機器の操作を実体験して頂きました。
(写真左)



最後に生徒さんより現場見学に対して、御礼の言葉を頂きました。(写真上)

意見交換会

出雲県土整備事務所黒田所長様のご講演・若手技術者体験談・全体を通じた質疑応答を行いました。



開催にあたり部会長より挨拶



出雲県土整備事務所長様のご講演



若手技術者の建設業に就いての体験談



農林高校生の皆さんからの質問



農林高校生より当青年部会にシクラメンをいただきました。

- ・本事業を各紙で取り上げていただきました。
- ・出雲ケーブルテレビでは翌日より放映していただきました。

島根日日新聞 2013.12/13(金)

将来はぜひ建設業に

高校生が現場見学と意見交換

出雲地区建設業協会青年部会

一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の青年部会(梅野直宏部会長、三十三社)は十一日、出雲農林高校環境科学科二年生二十八人を対象に現場見学会と意見交換会を行った。



全国的に若手技術者が少ない建設業の必要性を道路を決める前の高校生レベルし、将来の進路決定の役に立ててもらおうと初めて企画。現習先では、大田市の山陰道の建設現場と出雲市佐田町大呂地内の地すべり災害復旧工事の現場を見学。意見交換会では、県土整備事務所黒田耕一所长や建設業者手社員三人の話を聞き、高校生からの意見を聞いた。

梅野部長は「これからの定期的にしていきたい。私たちの仕事を紹介することで、将来の進路決定の何かのきっかけになればと考えています」と話した。同

校の波田野政幸学科主任は「見学会は一年の時にも行ったが、意見交換ができるのは数少ない機会。特に若い方の生の声が聞けたのが良かった」と話した。

現場見学会については「初めて見た機械があつてすばしかった」「いろんな職種があつてびっくりした」「達成感のある仕事だと感じた」などの感想が聞か

山陰中央新報 2013.12/18(水)



◆出雲農林高校生と意見交換会 高校生に地元建設業界に興味を持ってもらうと、県出雲地区建設業協会青年部会(梅野直宏部会長)はこのほど、出雲農林高校の生徒を対象にした現場見学会を出

場と出雲市佐田町大呂地内の地すべり災害復旧工事の現場を見学。意見交換会では、県土整備事務所黒田耕一所长や建設業者手社員三人の話を聞き、高校生からの意見を聞いた。

全国的に若手の技術者が不足している建設業への認識を深め、進路を決める際の一助にしようとする企画。同校環境科学科の二年生28人を招いた。

現場見学会は大田市波根町の道路建設現場と、出雲市佐田町の地すべりの復旧工事現場の2カ所を実施。現場の担当者から説明を受けながら、測量機器や重機を操作する様子を見学した。

若手社員が現場での経験などスピーチ。「建設業は形として残るもので、達成感とやりがいがある」と魅力をPR。生徒からは、入社1年目の過ごし方や業界に入った動機など質問があつた。

出雲地区建設業協会(梅野直宏部会長)は11日、出雲農林高校生との現場見学会・意見交換会を開き、生徒と部会員約50人が参加した。写真。

建設興業タイムス 2013.12/14(土)

高校生と意見交換

出雲青年部会

出雲地区建設業協会(梅野直宏部会長)は11日、出雲農林高校生との現場見学会・意見交換会を開き、生徒と部会員約50人が参加した。写真。



また、朝山大田道路(大田市波根町)と御幡川(出雲市佐田町)の2現場を見学した。

工事現場見学会に参加して



島根県立出雲農林高等学校
環境科学科2年 佐々木 良平

今回の工事現場見学会に参加して、特に印象深かったことが3つありました。

1つ目は、実際の現場を自分の目でしかも間近で見ることができたことにより、臨場感が凄くあり、現場や構造物の大きさに圧倒され、驚くことばかりでした。

2つ目は、働いておられる皆さんの熱い思いがそれぞれにあり、自分も社会に出て働くとなった時、高い目標を持ち、何事も一生懸命に頑張りたいと思ったことです。

最後は、この見学会に参加して土木の道に進みたいという決心ができました。ただ今の自分では就職しても周りの方々に迷惑をかけるだけなので、授業をきちんと聞いて、今から土木のことをしっかりと学んでいきたいと思います。

また、学校や自宅での基本的な生活習慣を見直して、土木の道に進んだ時に活躍できる社会人になりたいと思いました。



島根県立出雲農林高等学校
環境科学科2年 山崎 奈緒

工事現場見学会に参加して、今まで知らなかった事が分かったり、工事しておられる所を間近で見られてとても良い経験をすることが出来ました。朝山大田道路大原川橋下部工事と緊急治山工事御幡川山腹工事の2つの現場を見学させていただきましたが、どの現場も高い所に登ったりと命がけで、冬は寒く夏は暑いし、外仕事なので大変なことが多いと思うけど、作業しておられる人たちを見てとてもカッコイイと思いました。

意見交換会では、社員さんから社長さんまでたくさんの方の話を聞くことができました。やっぱり大変なことも多いけど、皆さんやりがいを感じておられ、東日本大震災の時の話なども聞いて、報道とかされていなかったのだから知らなかったけど、とても活躍されていたんだなと感じました。

3年生になると進路を決めないといけませんけど、自分の夢が叶えられるように、しっかりした人間になりたいと思いました。



工事現場見学会に参加して



島根県立出雲農林高等学校
環境科学科2年 山根 銀次

今回の見学会に参加させてもらい、僕はとても良い経験ができたと思いました。

実際に仕事をしておられる人の姿を見たり聞いたりしながら、迷っていた自分が建設業の素晴らしさに気付くことができ、建設関係の仕事をしてみたいという気持ちが湧いてきました。働いている人の姿を見ると毎日が大変そうだけど、一つのを完成させるのに目標を持って日々頑張っておられ、鍛えられているなと思いました。

建設業界は若手社員が不足していると聞き、僕はものを作るという作業が小さい頃から好きだったので、できたら建設業の道に進んでみたいなと思いました。

最後に、部会長・副部会長さんが言っておられた、コミュニケーション能力や、当たり前のことが当たり前でできる力というのは、何の仕事に就いても同じだと思うので、これからの高校生活でそれらをしっかりと身に付けていきたいと思いました。



島根県立出雲農林高等学校
環境科学科2年 湯浅 峻

寒い中での工事現場見学会でした。しかしその寒い中でも皆さんは頑張っておられて凄いなと思ったし、これが仕事なんだと思いました。仕事というのは寒いから休みます、面倒くさいので休みます、など自分のわがままは通りません。いくら寒かろうが暑かろうが仕事をしなくてはなりません。特に土木系の仕事は外での作業がほとんどなので大変だと思います。その中でも自分のやりがいを見つけて頑張っておられる皆さんを見て、「仕事」というものを実感しました。

建設会館に戻ってから仕事を始めた頃の話聞き、最初は分からないことだらけで、数学のノートを開いて勉強をしたりしていたと聞いて、改めて努力の大切さも分かりました。

また、最後の話でも言われた「コミュニケーション能力」は、どの仕事に就くにも大切なことなので、年上の人にもきちんとした態度や言葉遣いで対応できるように、高校生活のうち身に付けておきたいと思いました。

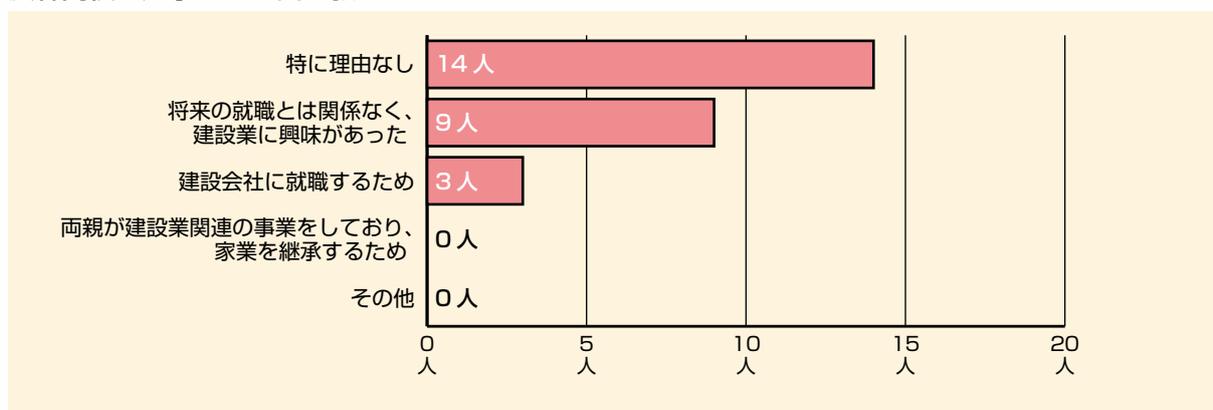


出雲農林高校環境科学科 2 年生アンケート結果

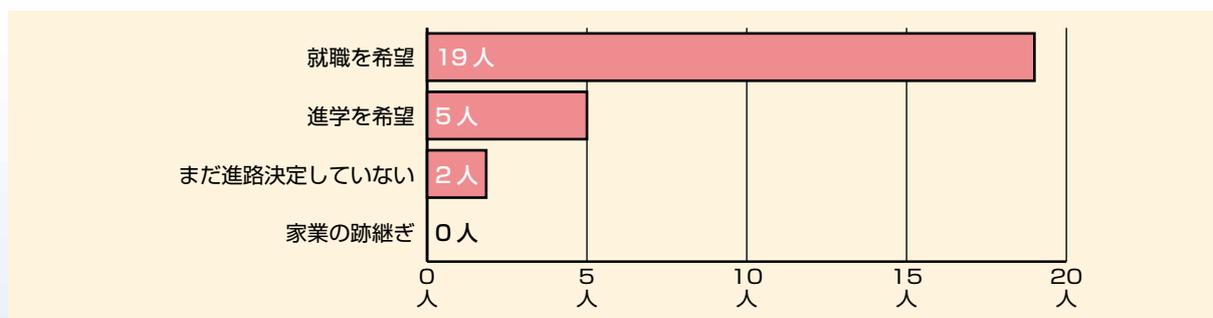
実施日：平成25年12月11日 対象者：出雲農林高校 2年生

目的 これまで農林高校・工業高校といった専門高校は、建設就業者の輩出の中核を担い、企業の高い技術力・施工能力の維持強化に貢献してきました。しかし、ここ近年、マスコミ報道等により建設業に対するイメージは低下し、「きつい」「汚い」「危険」といった労働条件、及び公共投資激減による労働賃金低下等に伴い専門高校からの地域建設業界への就職希望は減少の一途をたどっています。こうした現況を踏まえ、我々青年部会では地域建設業界と専門高校とが連携し、建設業界における若手人材確保・育成に資する事業を実施し、高校生からの率直な回答を今後青年部会が取り組むべき事業の参考とするために、アンケートを実施させていただきました。

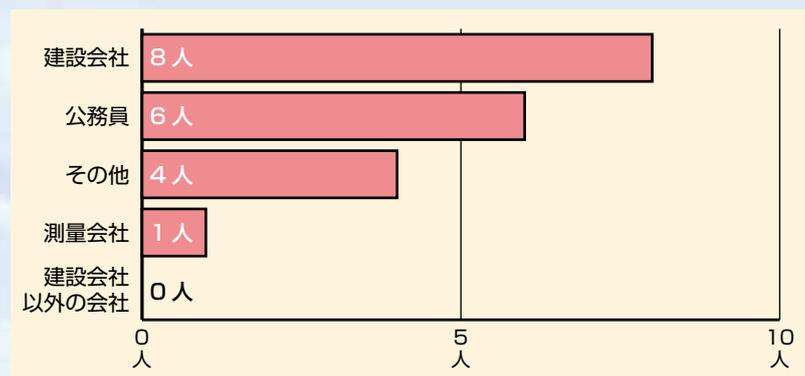
農林高校に進学した理由を教えてください。



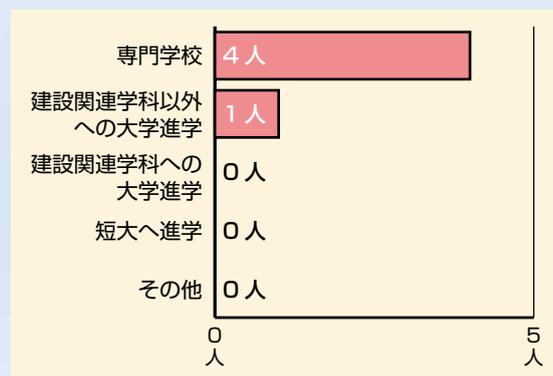
卒業後の進路について伺います。



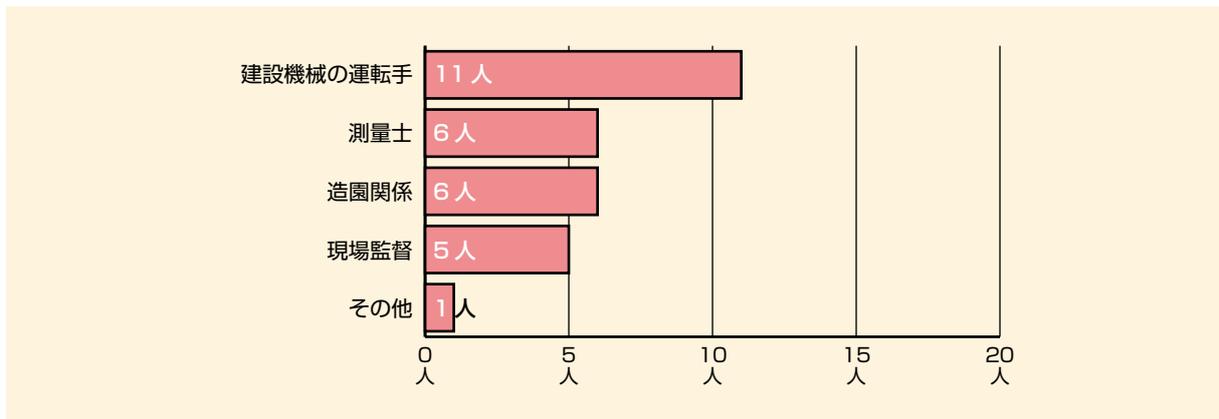
卒業後の進路についての問いで（就職を希望）を選択した人。



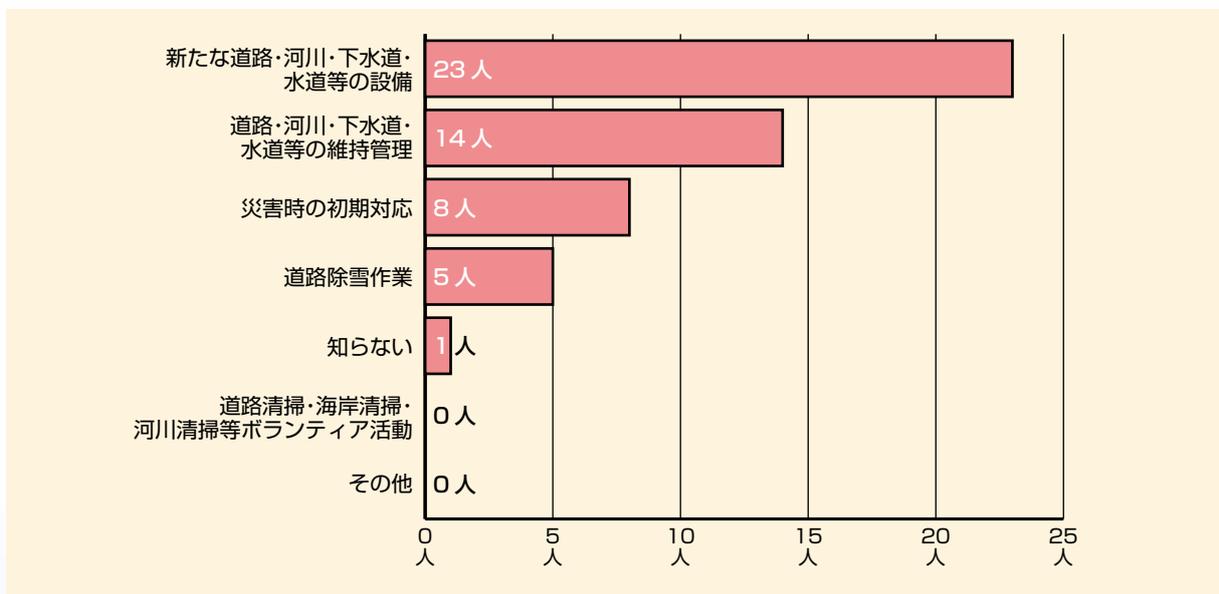
（進学を希望）を選択した人。



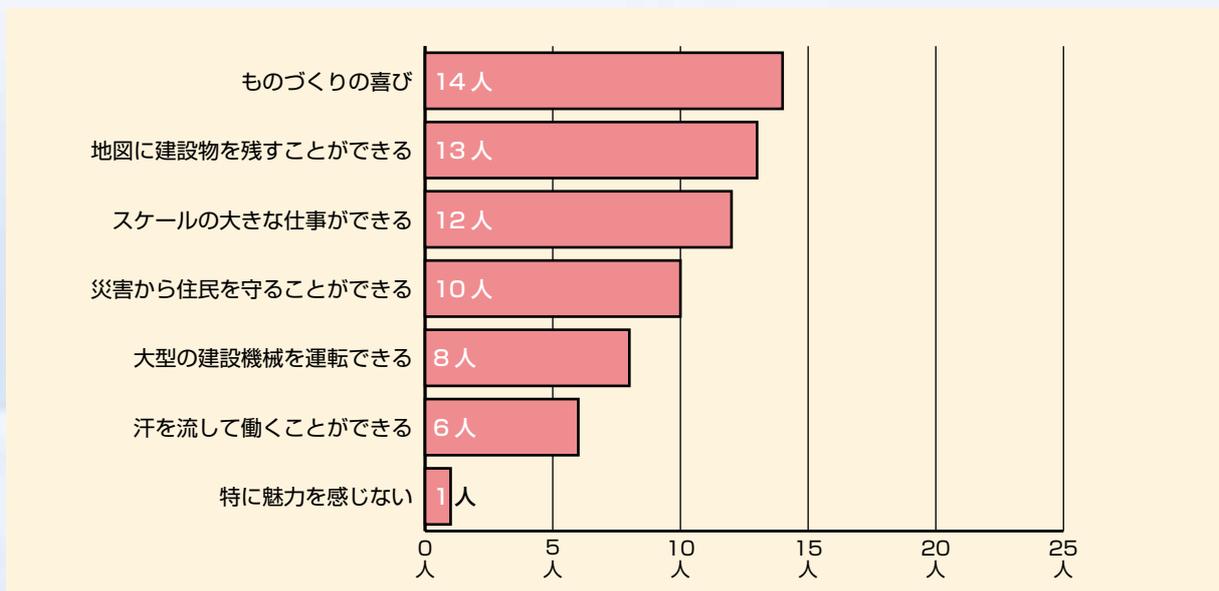
建設関連会社にもし就職したら、どんな職種に進みたいと思いますか。(複数回答)



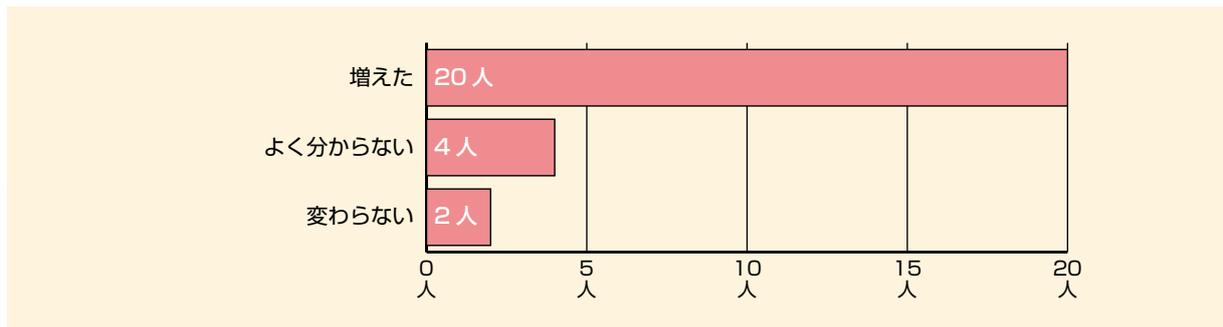
地域の建設業が果たしている役割について知っていますか。(複数回答)



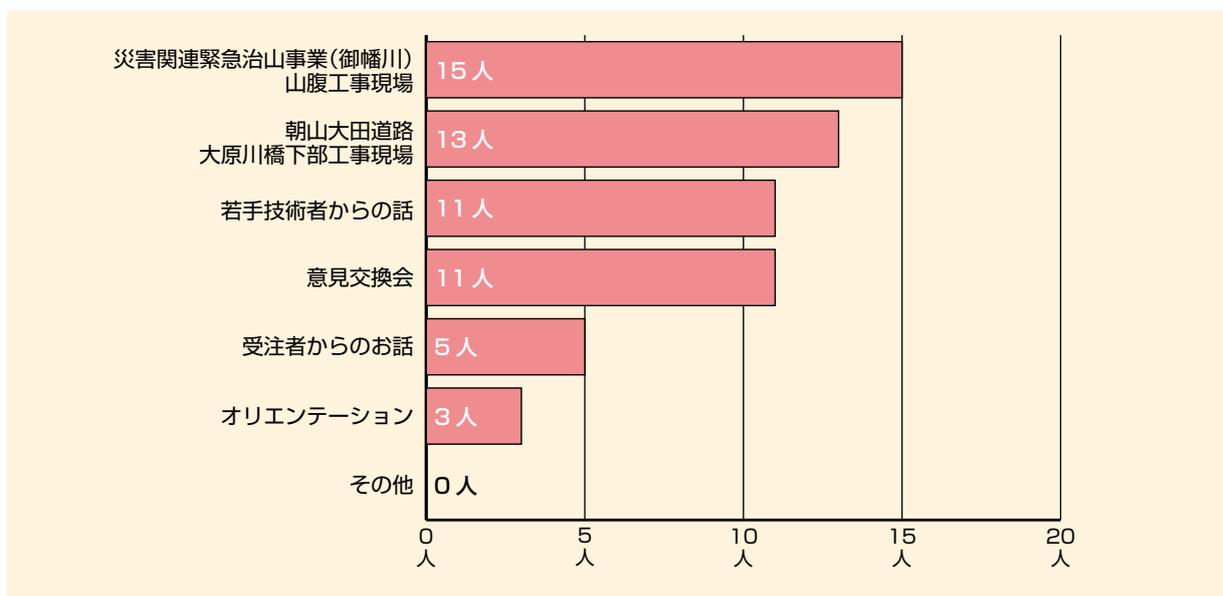
建設業の魅力について感じるものは何ですか。(複数回答)



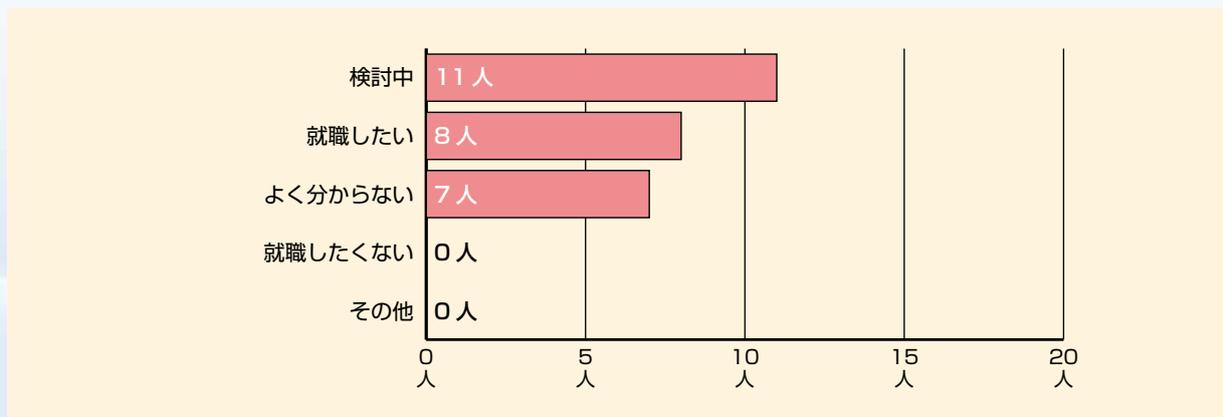
今回参加して、建設業の魅力項目は増えましたか。



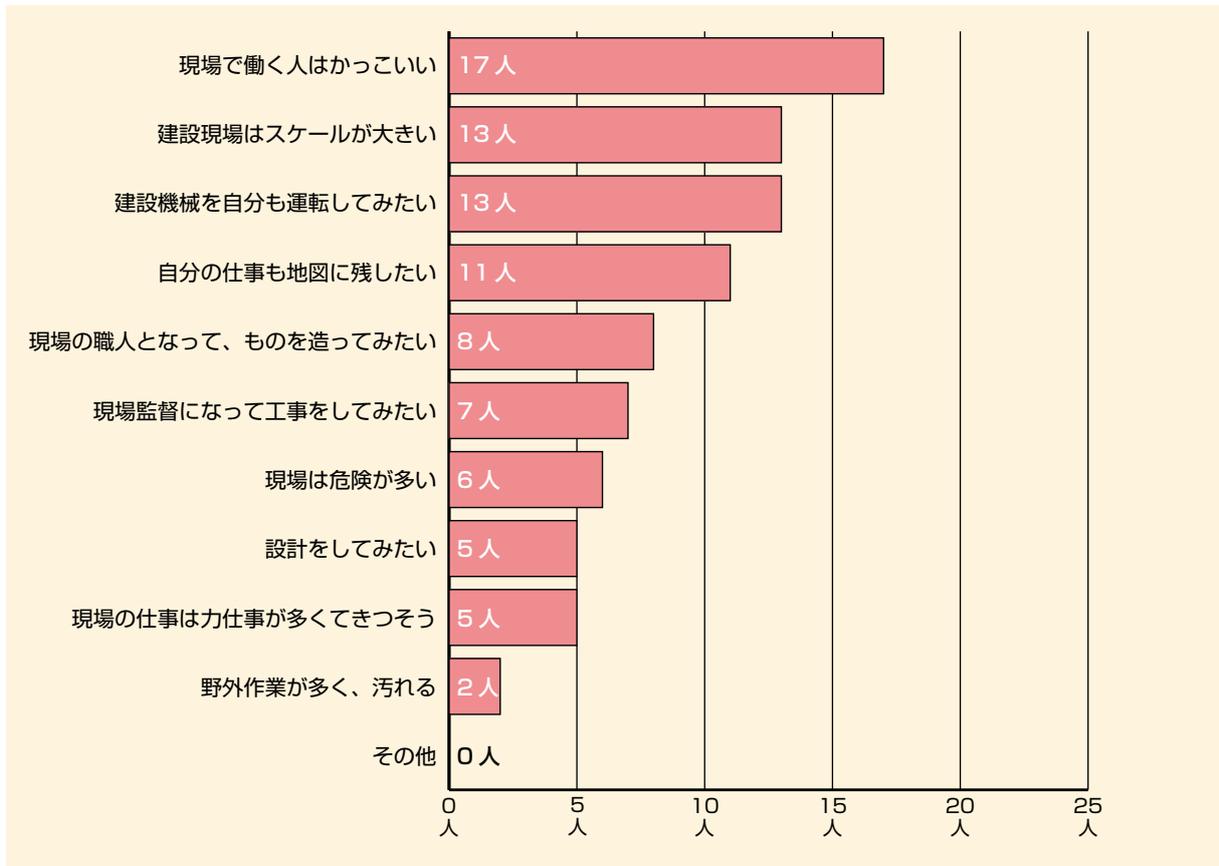
今回の現場見学及び意見交換会に参加して印象に残ったことは何ですか。(複数回答)



今回の現場見学及び意見交換会に参加して、建設業に就職したいと思いませんか。



今回の施工現場を見学して感じたことはありましたか。(複数回答)



アンケート結果 (まとめ)

今回の現場見学会は、農林高校生の皆さんにもっと建設業の魅力や興味を持ってもらう事を目的に、国土交通省の高速道路工事、島根県の災害復旧工事の現場を見学して頂きました。普段中々見ることの出来ない工事現場を見学した生徒さんからは、「はじめて見た機械が凄かった、運転してみたい。」「いろんな職種があることに驚いた」さらに、「建設工事は大変な事が多いけど、完成した達成感はずごとと思う」などの感想を頂きました。このように現場見学会・意見交換会を通し、魅力ある建設業を目指す我々の思いが生徒の皆さんに少しは届いたのではないかと思います。

意見交換会終了後にアンケートを実施しました。詳細は資料をご覧ください。高校を選択した理由は特にないようですが、将来は建設業に就職したいという結果となりました。また職種の希望が現場管理よりも建設機械の運転手など意外な回答でした。どちらにしても今回参加した生徒さんからは全体的には建設業に好意をもって頂いたのではないのでしょうか。今後も継続が必要だと強く感じました。

地域建設業にとって若手技術者の不足はマスコミもこの事を取り上げているように本当に深刻な問題です。どのようにして建設業の魅力を伝え、人材確保するかが重要です。今後も更なる人材確保・育成の取組みとして、まずは子ども達とコミュニケーションを図り、どの職種に興味があるのか、どんな事がより印象に残るのか、現場見学の今後のやり方など、この経験を生かして継続的に事業を行う事が必要不可欠であると思います。

最後に、建設業界を挙げての技術向上は勿論のことですが、イメージアップにも大いに取組み、地元住民の方々にも趣旨等をご理解いただき、子ども達に是非建設業の道を志したいと思っただけの環境づくりが、我々の使命であると考えています。

青年部会を卒業するにあたって



(有)平井組 平 井 貴 司

平成 12 年入会以来振り返ってみると経営研究委員会に計 4 回も所属させていただきました。

案外そのみち一筋だったなと思います。思い出してみると新分野や入札制度について、また出雲県土整備事務所の専門監の方や幹部の皆様方との意見交換会などさせていただきました。その中でも平成 22・23 年度の PFI・PPP についての勉強会を開催させていただいた事は忘れられません。

当時私は、委員長で担当副部長は榎野部長でした。忘れもしませんが部会長の愛車 BMW（運転は、すべて榎野さん）で広島の中地方整備局に月に多い時には 3 回位行かせていただきました。結果、当時の国土交通省政務三役政策審議室政策官の小笠原憲一様を講師にお招きし制度の説明やこれからの必要性や日本と外国との制度に対する温度差、国内の事例などをお話いただきました。参加者は、会員のほか、島根県、出雲市、銀行の関係者の皆様など会場いっぱいの参加者となりました。事業の成功の要因はいろいろあるとは思いますが、榎野部長の行動力が大きいのではなかったかと考えます。よくもまあ JC（青年会議所）みたいに熱くなれるもんだわと感心したものです。また懇親会はあまり覚えていないくらい飲みました。最終年度は何もしない監事でしたがわがままも聞いていただき大変感謝しています。これから青年部会も大変だとは思いますが青年部会としての誇りをもって何事にも真剣に取り組んでいただきたいと思います。楽しい時間を本当にありがとうございました。



— 新入会員紹介 —



今岡工務店 今岡 宏典

今年度から青年部会に入会させて頂きました、今岡工務店の今岡宏典です。

私は大阪の専門学校を出てから地元に帰り測量会社に就職し5年間測量の仕事をしました。その後1年間木次合庁の出向を経て、現在は父親と共に建設業に従事しています。

同級生から青年部会の勧誘を受けましたが、自分のところのように個人企業でやっているような会社が大手企業の人たちと共にできるのだろうかと不安に思っていました。しかし、いざ入会してみますと会社が大きい、小さいに関係なく接していただき、同級生をはじめ先輩会員の皆様に暖かく向かえられ、とても安心しました。様々な事業に参加するごとに親睦が深まり、青年部会の団結の素晴らしさを実感しています。

これからも出来る限り参加し少しでも皆さんの力になればと思います。今後ともご指導よろしく申し上げます。



(有)和田建設 寄 貞 隆 夫

今年度より出雲地区青年部会に入会させて頂きました、(有)和田建設の寄貞隆夫です。

私は建設業に従事して19年になります。最初は現場の手伝いから始まり、現在は営業も兼ねて仕事するようになり5年になります。

知り合いの方からお声をかけていただき、去年は今まで関わったことがなかった海岸清掃のボランティア活動や、あまり話をした事がなかった役所の幹部の方たちと直接膝を交えながら意見交換することができ、私にとってはとてもプラスになったと思います。そして、青年部会に入会したからこそ、沢山の方々との縁をつなげることができ感謝しています。

この活動・研修等に出席させていただいていることで、自分に何が出来るかを考えながら今後の行動に活かしていきたいと思っています。

至らぬ点もあるとは思いますが、少しでも貢献できるよう頑張りますので、ご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願いいたします。

親睦事業報告

全国建設青年会議 第 18 回 全国大会

日 時 平成 25 年 11 月 29 日 (金)

場 所 広島県広島市 ANA クラウンプラザホテル

参加人数 491 名

大会テーマ “考動” ～ Ideal Action 今 建設青年人が動くとき！～

次 第

記念講演

テーマ 「期待される土木であり続けるために」

講 師 国土交通省 技監 足 立 敏 之 氏



安倍首相よりビデオメッセージ

行動事例発表 (10 分×9 ブロック)

関東建設青年会議・近畿建設青年会議・中部建設青年会議

四国建設青年会議・東北建設業青年会・九州建設青年会議

北陸建設青年会議・北海道建青会・中国地方建設青年交流会

パネルディスカッション

テーマ 「各地域の行動事例について」

コーディネーター 広島経済大学 教授

パネリスト (株)アスカネット 代表取締役

(株)中国新聞社 記者

防衛省中国四国防衛局 防衛補佐官

国土交通省中国地方整備局 企画部長

中国地方建設青年交流会 会長

川 村 健 一 氏

福 田 幸 雄 氏

野 田 華 奈 子 氏

三 上 大 二 氏

足 立 徹 氏

加 藤 修 司 氏



梅野実行委員長 (部会長) 挨拶



「第 18 回全国大会」に参加して

会員交流委員会 委員
(株)日本海建設 青 砥 正 人



“考動”～ Ideal Action 今 建設青年人が動くとき!～

を大会テーマに、全国建設青年会議第 18 回全国大会が開催され当青年部会から 27 名が参加しました。

北は北海道、南は沖縄まで全国から総勢 491 名が参加し盛大に開催されました。

大会は安倍首相のビデオメッセージで始まり、主催者挨拶、来賓祝辞と続き、開催趣旨説明では「何もしなければ変わらない。社会に適正に理解されるよう、考動する契機となることを目的に」と、全国大会実行委員長である梅野部会長より発表がなされました。

また『期待される土木であり続けるために』と題し、国土交通省 技監 足立 敏之氏の記念講演を拝聴しました。

その中で今後は CIM 等の新技術を活用したインフラマネジメントシステムに転換していくとのことでした。そして約 60 年前、当時の原口忠次郎神戸市長が本州と四国を橋で結ぶことを構想された時の話をされ、議会から「白昼夢でも見ているのではないか」と批判されたそうですが、原口忠次郎市長は「人生すべからく夢なくしてはかないません」と言われたそうです。

この言葉を聞き全くその通りだ。不平不満を言っても何も変わらない、夢・目標を持って動くことこそ我々のすべきことだと思いました。そして足立技監の言われた今後のビジョンを持ち提案する事の大切さを会場の皆様も再認識されたことでしょう。

続いて全国 9 ブロックの青年会議が行動事例を発表されました。どの地区も若手労働者不足、建設業に対する間違っただイメージを改善し適正な理解をしてもらおうと地域社会とのふれあいの機会を設けたり、発注者、マスメディアと意見交換をしたりと工夫された活動を行っておられました。

パネルディスカッションでは異業種の方から見た建設業のイメージを聞きましたが私達建設業に携わっているものには当たり前でも異業種の方、一般の方にはわからない、伝わっていないことがたくさんあることがよくわかりました。

最後には中国地方建設青年交流会 原 顧問により大会決議書が読み上げられ盛大な拍手で閉会となりました。

全国大会閉会後は懇親会が開催され会員同士で酒を酌み交わし親睦を深める事が出来ました。全国にこれだけたくさんの建設業で頑張っている人がいることを心強く思い、また自分も負けないように頑張らなければいけないと初心を思い返す良い機会となりました。

地域貢献事業報告

2013 海岸清掃

地域貢献委員会 委員
今岡工務店 今岡 宏典



平成 25 年 8 月 2 日に湊原海岸にてクリーンアップ作戦を実施しました。

この事業には、出雲県土整備事務所より黒田所長様を始め、多数の職員様にもご参加頂き真夏の暑い中清掃活動に汗を流しました。

今年は、出雲大社の遷宮により多くの観光客がこの出雲を訪れられており、大変な賑わいを見せています。「出雲を訪れる皆様に綺麗な海岸を眺めてほしい」と、参加者全員作業を開始しました。

当日は比較的に作業がしやすい天候でしたが、海岸に到着した時の光景は、漂着ごみの多さに圧倒され、近隣各国からの大小様々な漂着ごみや先般の島根・山口の豪雨災害で日本海へ流れ出た木々等が多く漂着している悲惨な状況でした。

今回、清掃活動を実施した箇所は海岸線の一部にすぎませんが、このボランティアに参加した全員が参加してよかった、また日常生活においても観光都市島根を少しでも綺麗にしようという心が芽生えたのではないのでしょうか。海岸清掃に参加された皆様、大変お疲れ様でした。

清掃場所 湊原海岸 堀川から南



こんなにゴミが！！



きれいになりましたよ！

海岸清掃内容

場 所	大社町湊原海岸	
参加者	青年部会会員	33 名
	出雲県土整備事務所	20 名
	オーケーリース(株)	2 名
	(株)原 商	2 名
	(株)リョーキ	1 名
	(総勢 58 名)	
収集車	4 トンダンプ	2 台
	2 トンダンプ	3 台
ゴミの量	1,560 キログラム	

経営研究事業報告

意見交換会 2013

経営研究委員会 委員

山口建設(株) 安部 希芳



平成 25 年 10 月 25 日（金）、16 時から出雲建設会館において、青年部会経営研究委員会主催による「意見交換会 2013」を開催し、講師として出雲県土整備事務所より 3 名の幹部の方をお招きしました。

始めに岩田技術専門監様より「地下埋設物等障害物に係る留意事項」と題して、今年度上半期の事故の発生状況やどのようにして地下埋設物への損傷事故を防ぐか例を出して頂きながら分かり易く講演して頂きました。

続いて黒崎建築部長様からは「営繕工事に係る留意事項」と題して、出雲県土整備事務所管内の建築許可業者の推移や、工事着工状況などを講演して頂きました。

質疑応答の時間には、青年部会会員から提出された質問事項等に対し土木関係については荒木技術専門監様より、建築関係については黒崎建築部長様より回答を頂戴いたしました。直接現場で携わる中で疑問に思ったことや要望事項について懇切丁寧に、又明快にご回答いただき大変参考になりました。

研修会終了後、場所を変えて意見交換会を開催しました。出雲県土整備事務所より講師様を始め 10 名の幹部職員の方々にご参加頂きました。直接膝を交えながら、施工上の注意点等具体的にお話を伺い有意義な語らいをすることが出来ました。

今回の研修会を通して、工事管理の観点など幅広く学ばせて頂いたので今後の業務に役立てていきたいと思っております。研修会に参加された皆さん、ありがとうございました。



経営研究事業報告

「出雲農林高校生との現場見学会・意見交換会」に参加して



経営研究委員会 委員
ミシマ産業(株) 三 島 一 男

2013 年 12 月 11 日、島根県立出雲農林高等学校環境科学科 2 年生 28 名の皆さんを対象とした「現場見学会・意見交換会」を開催しました。

8 時 50 分、バスにて出雲農林高校を出発です。道中、梅野部会長より「ものづくり」の魅力、建設業界の必要性と役割についてお話しいただきました。

最初の「松江国道事務所発注工事 朝山大田道路大原川橋下部工事」現場へ到着です。本工事は株式会社中筋組様が受注されております。まず始めに松江国道事務所梅野監督官様より、山陰道の必要性、現在の進捗状況についてお話しいただきました。続いて本現場の現場代理人株式会社中筋組川上真司様より工事の概要を説明していただきました。

現場内へ移動し「鉄筋ガス圧接」や「生コンの品質管理」、「測量機器」について詳しく説明していただきました。また、間近で足場の組立作業も見学させていただきました。

最後に高校生の皆さんと年齢が近い株式会社中筋組様の若手社員、板谷様より現場での一日の流れを説明していただき、「建設業は自分たちが作ったモノが何十年先までも残るのでやりがいもあるし、完成したときの喜びも大きいので、高校生の皆さんも是非頑張って一緒に働きましょう」というお話しをいただきました。

午後からは「出雲県土整備事務所発注工事 災害関連緊急治山事業（御幡川）山腹工事」現場を見学させていただきました。本工事は今岡工業株式会社様が受注されております。始めに本現場の現場代理人藤原寛様より災害が発生した理由や工事の概要を説明していただきました。

その後、最先端の「測量機器」を間近で見せていただいたり、本現場で使用されている建設機械、アーティキュレートダンプ (30t)・ブルドーザ (D-5)・バックホウ (1.4m³) 等についての説明を受けました。高校生の皆さんも最新の技術や普段見慣れない機械を見て驚いていました。

「現場見学会」終了後、建設会館へ会場を移し、出雲県土整備事務所黒田所長様をお招きしての「意見交換会」を行いました。

まず初めに、黒田所長様より「魅力的な建設産業をもっと身近に」と題しましてご講演いただきました。国土強靱化へ向けた建設産業の必要性、「若い人材」が求められている現状等、建設産業の魅力について映像を交えて詳しく説明していただきました。

続いて、青年部会の若手社員 3 名から自らの実体験に基づいた「建設産業の魅力」についてお話しいただきました。

最後に、ご協力いただいた皆様には大変お世話になりました。また、高校生の皆さんにとっては貴重な経験になったのではないのでしょうか？近い将来、私たちと同じ「建設産業」への道を進んでくれる一助になったと思います。

本当にありがとうございました。

「青雲」

—— 題 字 ——

前島根県知事 澄田信義 氏



『新しい力』

原油を求め太平洋戦争を起こし、あげく大敗を期した日本。全土が焦土と化し甚大な損害を被りながらも、高度経済成長を成し遂げた。21世紀に入り、快適な生活環境重視の中、経済不安・環境問題等様々な弊害が生まれた。地球全体が温暖化に悩まされている現在ではあるが、オゾン層破壊の原因となるCO₂削減のため風力発電・太陽光発電などの新しいエネルギーが誕生し、今後も更に「新しい力」の研究・開発が進んでいく。我が青年部会も「新しい力」となれるよう精一杯邁進していきたい。

一般社団法人

島根県出雲地区建設業協会青年部会 総務広報委員会

一般社団法人 島根県出雲地区建設業協会青年部会

歴代部会長



初代部会長	山本恭則	【平成9年度】
第2代部会長	今岡裕統	【平成10～13年度】
第3代部会長	別所幸雄	【平成14・15年度】
第4代部会長	広戸修	【平成16・17年度】
第5代部会長	久文秀典	【平成18・19年度】
第6代部会長	山崎章弘	【平成20・21年度】
第7代部会長	山口弥	【平成22・23年度】

編集後記

60年に一度の出雲大社大遷宮を迎え、新しく生まれ変わった御本殿・神門通りには連日多くの観光客で賑わい、活気に満ち溢れた一年となりました。又、2020年東京オリンピック招致決定、アベノミクス効果による景気回復と日本全体でも明るい話題の多い1年であったのではないかと思います。

しかしながら、我々建設業界を取巻く環境は公共事業費、労務単価の増と良い方向へと向かっているものの、過去の公共事業費削減と不況に伴う民間設備投資の低迷による負の連鎖から、今だ抜け出せない状況であるのも確かです。

「負の連鎖」からの脱却、そして建設業に再び光と活力を取戻すべく、我々青年部会でもこの一年様々な事業に取り組んで参りました。その小さな活動の継続が大きく光輝く為の原動力となり、再び魅力ある建設業を取戻せると信じ、日々考えて行動しなければならないと感じます。

今建設業に射しこんでいる「小さな光」を「眩い光」に変えるべく、部会長を中心とした我々青年部会が、気概を持って行動する時は今ではないでしょうか！

青雲16号の発行に際しご協力を頂いた方々に感謝を申し上げ、結びとさせていただきます。

総務広報委員会 副委員長 大野 剛



一般社団法人

島根県出雲地区建設業協会青年部会

〒693-0028 出雲市塩冶善行町2-2

TEL : 0853-21-1187 FAX : 0853-21-2454

出雲地区ホームページ (<http://www.shimakenkyo.or.jp/izumo/>)
青年部会の活動についてもご案内しています。是非ご覧下さい。